

研修主題 「主体的に問いを見出し、自己探究を通して、資質・能力の向上を図る ～探究は自分の生活の中に～」

探究って
どうやるの？

○探究のプロセス(探究サイクルを意識した学習)

なぜ？どうして？ **課題の設定**

- ・子どもと教材との出会いを大切に
- ・体験活動等を通して、課題意識をもつ

→子どもの課題に対する意識のズレや疑問を自身の課題に繋げる支援

もっと知りたい！ **まとめ・表現**

- ・まとめは相手意識、目的意識を明確に
- ・各教科で身に付けた表現方法を活用

→**新たな課題の設定**へ繋げるため、活動を振り返る支援

夢中になれる、主体的な**情報の収集**

- ・体験を通じた感覚的な情報収集
- ・ICTを活用した情報収集

→子どもの「知りたい」などの主体性を引き出す支援

協働し、思考を深める**整理・分析**

- ・子ども自身で情報の吟味・精選
- ・対話の充実(子ども間、子どもと教師間)

→目的のための情報の整理や、考えを広げ深めるための支援

探究的な学習を意識した
単元開発

大切にしたい**3つの視点**

- 子どもの声** ⇒ ・子どもの「学びたい」、「知りたい」を課題に
・子どもの声を聴く(つぶやきを拾う・待つ)
- 机からの脱却** ⇒ ・本やパソコンで分かる情報だけに頼らない
・校外や体験の中に本物につながる情報がある
- 本物に触れる** ⇒ ・課題を自分事につなげる
・外部機関との積極的な連携

本物とは、児童生徒にとって「充実した活動」であり「資質・能力の育成」を実現するもの

評価は
どうするの？

○資質・能力の育成(ルーブリックの作成)

中学校区で育成を目指す資質能力

- 探究する力 → 課題発見・解決力
- 様々な人達と協働する力 → 対話する力、自己・他者理解力、自己効力感(各校)
- 自分の学びを見つける力 → 学びに向かう力

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①「概念的な知識の習得」	①「課題の設定」	①「自己理解・他者理解」
②「自在に活用することが可能な技能の獲得」	②「情報の収集」	②「主体的・協働的」
③「探究的な学習のよさの理解」	③「整理・分析」	③「将来展望・社会参画」
	④「まとめ・表現」	

校区内で共通して育成を目指す資質・能力を決め、単元の評価規準を作成

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
③「探究的な学習のよさの理解」	①「課題の設定」	②「主体的・協働的」
	③「整理・分析」	

子どもの声

単元名 「地域活性化」(福山市立引野小学校 6年生)

○引野小学校の児童数から引野町について考えよう

「引野小学校の児童数はこのままでどうなるのだろう？」

減り続けて、引野小学校が無くなってしまおう。

「引野小学校の人数が減るという事は…」

引野町も人がどんどん減って合併して、引野町は無くなる。



児童数の推移グラフ

【単元課題】
引野町の魅力を発信して、たくさんの人に引野町に来てもらおう！

○引野町の魅力を調べてみよう！

パソコンで調べてみたらお店はある！引野の魅力ってそれだけなの？

実際に町を歩いてみよう。住んでいる大人にも聞いてみよう。

働いている人が素敵だから、お店が魅力的だと言えるのでは？
素敵な場所があるのに、知らない人が多いのはもったいないな。

たくさんの人に知ってもらうためには SNS (YouTube, Instagram) を使って魅力を発信しよう。



お店の方へのインタビュー

SNSで発信

子どもの「やりたい」を単元計画に入れることで、子どもたちの課題への向き合い方が変化し、積極的に行動するようになった。

子どもたちの「やりたい」が、目的につながるののか確認するため、活動前、活動中、活動後等に子どもたちと目的を共有する時間を設定した。

机からの脱却

単元名 「未来に伝える『長浜の伝統』」(福山市立長浜小学校 6年生)

○地域の方の話を聞き、自分にできることを考えよう！



盆吉の会の方からの話

長浜音頭を守る盆吉の会の皆さんから、「『長浜音頭』を踊れる人が年々減り続けている。小学生が踊れるように広めて欲しい」とミッションを頂きました。

全校で踊れるようにしたいので、まず踊りを教えてください。

【単元課題】
長浜学区の伝統「長浜音頭」を習得し、秋フェスティバルで全校に広めよう！



踊りの指導

○思いを受け継ぐ準備をしよう！

下級生に伝える前に、実際に保護者の方・学区の先生方に教える体験を通して、新たな課題が見つかりました。

分かりやすく伝えるためにどうしたらいいかな？

踊り方の説明書、動画などの資料の改善、練習方法や練習時間について話し合い、休憩時間等を使い、全校に伝える活動を行いました。



秋フェスティバル

練習時間確保のため、休憩時間を利用しよう。
丁寧に分かりやすく教えるために、グループを細かく分けて教えよう。

秋フェスティバルでは、全校・地域の方と一緒に運動場で手作りうちわをもって「長浜音頭」を踊りました。
盆吉の会の方から、感謝の言葉を頂きました。

次は今度入学してくる子たちにも広めたいな。

実際に地域の方から話を聞き、一緒に取り組むことで、子どもたちが自分事として課題を持つことができ、試行錯誤しながら取り組むことができた。

つきたい力を明確にし、単元計画を立てるが、子どもたちの実態から、目的の達成に向け、活動の内容や順番を臨機応変に変えていく必要がある。

本物に触れる

単元名 「自己実現」(福山市立一ツ橋中学校 3年生)

○将来の自分に対して、今の自分には何が必要なのかを考えよう！

僕は将来何がしたいのかなあ。
仕事って調べてもよく分からないなあ。

何がしたい？どうすれば自分に繋がれる？

【単元課題】 自分の将来を本気で考えるには何が 필요한のか？

- ・直接働いている人に話が聞きたい。・その会社に行き、体験したい。
- ・高校や大学を訪問し、通学している人に話を聞きたい。 など

- オンライン対談(プロバスケ、警察、俳優、看護師、建築家)
- 学校で対談(社長業)
- 修学旅行(立命館、理容・美容専門学校、デザイン専門学校)
- 修学旅行(京都企業訪問、京都体験学習)
- メールで質問(カーブ選手)
- 企業訪問(福山市17か所訪問)
- 高等学校説明会

○本物に触れよう！自分ごとに繋げよう！

子どもの知りたいに
応える！

外部連携の充実！

メール、オンラインや直接お会いしての対談など

実際に話を聞くと、自分が調べたり、考えたりしたことと違ってた。
就職や進路を決めた際には、どの方も、しっかりと自分と向き合うことをされていた。

自分の将来について考える時に必要なことは、「自己理解」と「他者理解」だと感じた。自分を知り、人や物を知ることで、将来に繋がることなど価値観を広げることができた。

話を聞きたい外部の方から聞くことで、新しい価値観に触れ、より深く自分の進路について考えることができた。

一人一人が本物の情報に触れるために、子どものつぶやきや一人一人の考えを大切に、希望が叶うような様々な機関に働きかける必要がある。